

---

十日町市教育委員会 文化財課 年報 6

---

平成13年度 (2001.4 ~ 2002.3)

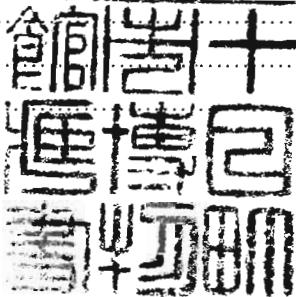
十日町市教育委員会 文化財課

# 文化財課年報6 目次

I. 運 営	
1. 文化財保護行政この1年	1
2. 文化財保護審議会の経過	2
3. 予算と決算	3
II. 指定文化財	
1. 新指定の文化財	4
2. 指定文化財の保存と管理	6
III. 埋蔵文化財	
1. 試掘・確認調査の概要等	8
2. 発掘調査報告書刊行事業	10
IV. 調査・研究	
1. 研究報告 十日町市博物館の織物資料整理 —明石ちぢみを中心として—	林 真子 11
2. 資料紹介 宮ノ上A遺跡出土のバチ形石器	菅沼 直 14
V. その他	
1. 文化財関連博物館事業	16
2. 文化財資料の活用	18
3. 文化財資料の貸出	20
資料	
附：指定文化財一覧	22
附：指定文化財管理委託料・補助金	23
編集ノート－職員名簿	24

例

言



1. 本書は、十日町市教育委員会文化財課の平成13年度を中心とした活動記録である。
2. 本書の構成は、文化財課の業務を大まかに I. 運営、II. 指定文化財、III. 埋蔵文化財、IV. 調査・研究、V. その他の5つに分類し、活動を報告する形とした。
3. 本書の原稿は文化財課の職員がそれぞれ担当を決めて執筆し、末尾に担当者の名前を記した。なお、調査・研究については紀要的性格に鑑みて記名原稿とした。
4. 提出された原稿は、できるかぎり原文を尊重した。ただし、内容・表記等については、執筆者の了解を得て編集者が修正したものもある。
5. 本書の編集は竹内俊道が担当し、菅沼直がこれを輔けた。

# I. 運 営

## 1. 文化財保護行政この1年

始めに平成13年度の文化財課の活動を概観する。

### 《文化財保護審議会》

第15期委員は任期中であり、年4回の審議会が開催された。委員の任期は平成14年6月11日まである。  
**《文化財指定》**

教育委員会は、平成14年2月15日に四日町神宮寺観音堂と十日町諏訪神社の俳句献額、各1面の2件を市指定文化財にすることにつき文化財保護審議会に諮問した。文化財保護審議会は、2月27日に審議会を開き、市指定文化財とすることが妥当である旨の答申をした。これを受け、3月22日の教育委員会で市の文化財として指定することを決定し、同日に告示された。

### 《指定文化財の管理等》

県指定文化財「神宮寺観音堂・山門」は、平成8年度から県費補助を受けて茅屋根の葺替えを行なっていたが、最終年にあたる今年度は観音堂北側を実施し全体を完了した。市は毎年、事業費の1/4を負担した。

### 《発掘・試掘調査》

今年度は大きな発掘調査はなく、宅地造成に伴う水沢館跡、土砂採取時新たに発見された宮栗北遺跡、桃山遺跡、中世城跡狐城の試掘・確認調査を行なった。別に刊行する『平成13年度十日町市内遺跡試掘・確認調査概要報告書』も併せて参照いただきたい。

### 《出土遺物の整理》

平成11年度から3ヶ年計画で実施している新潟県緊急地域雇用対策事業が最終年度となった。伊十日町地域シルバー人材センターに委託し、6ヶ月間5人が土器の水洗い注記等諸作業に従事し、概ね400箱が処理された。今後発掘調査報告書にまとめるために重要な作業の一つである。

### 《発掘調査報告書の作成》

今年度より阿部前博物館副館長が嘱託としてこの仕事に専念し、本格的発掘調査報告書作成に向けた資料・図面等の整理を進めてきた。その結果、懸案であった馬場上遺跡の報告書刊行が来年度には実現する一定の目途がついた。

### 《課題と展望》

笹山遺跡出土品の国宝指定を受けて文化財保護審議会で建議し、専門の委員会を設置して国宝とその出土地の保存と活用について検討がなされた国宝館

・火焰の都計画は、同策定委員会答申後、所管が企画人事課に移され、市長部局直轄で現在、より具体的な基本計画が策定中である。笹山遺跡の保存と活用の問題は文化財担当課としても重要な課題であり、連絡を密にして今後の事にあたりたいと思う。

しかし、答申で示された計画を具体化していくには、市の方針決定、長期計画への採用、市民や地元中条地区の意向、遺跡の範囲確認、土地の確保と財源問題等々、幾多の問題や懸案・宿題があることも事実である。事業化に向けた今後の進展を、関心を持って注意深く見守りながら、担当課としてできる事、しなければならない事を判断し、適切な対応をとる必要がある。特に笹山遺跡の史跡指定地が、一部地主の指定同意が得られない現状は、今後の国・県の史跡指定、ひいては火焰の都計画そのものの実現に向けて障害の一つとなっている。しかし、地主は同計画の進展に深い関心を持っており、自分の土地がどのように活用されるか、代替地はあるのかなど、一部では具体的な話し合いもされている。こうした状況を踏まえ、文化財課では史跡指定補償料の3ヵ年継続を地主に提示し同意を得たが、今後同計画の具体化を急ぎ、地主や地元の理解を得ながら着実に事に対処することが望まれる。

国宝の管理について言えば、貸出しの問題もある。発見・復元以来、約20年の歳月が経過している事に加え、文化庁の依頼により平成4年以降、米国・仏国・英國と海外展への出展が続いていることなどから、特に火焔型土器No.1については、新たな亀裂が見つかるなど、資料の劣化が進み保存上に大きな問題を残した。文化庁の指導もあって、新年度から国宝深鉢型土器を順次解体保存修理する計画で予算計上したが、こうした取り組みのほか、貸し出し制限を行なうことも視野に入れた、保存・活用の対応が迫られている。

その他、市街地化の進展によって土地に絡む文化財が壊される危険度の高い、信濃川河岸段丘端に分布する中世城館跡群の保存についても、文化財保護審議会から指摘を受けている。こちらも早急に実態の把握に努め、将来展望を示さなければならない。

こうした課題を念頭に置きながら、次年度以降も将来を見据えた文化財行政に努力を続けたい。この1年間の各種事業を実施するにあたり、ご指導・ご協力をたまわった関係者各位に心から感謝申し上げる次第である。  
(山田正毅)

## 2. 文化財保護審議会の経過

◆第1回 6月15日（金）午後1時30分～3時30分  
《出席者》樋熊会長、佐野職務代理、須藤、田村、大島、庭野、武田の各委員。事務局：生越教育長、山田、竹内、高橋、菅沼。

### 《内容》

挨拶の後、発掘調査と指定文化財の現状報告説明が担当より行なわれた。大井田城跡の部分崩落、枯木又のゴミ集積場等は事務局の対応を了承。ただ、狐城発掘について佐野・大島委員より中世城跡保存の立場から開発許可に対し異議が呈され、委員による現地確認及び事務局と地権者との話し合いを再度行なうこととなった。又、国宝の大英博物館展示に対し、以後の海外貸出しは資料保存上好ましくない趣旨の発言が会長以下委員各位より相次いだ。

次いで、今年度の指定候補物件の中から、いくつかについて審議が行なわれた。結果、十日町諏訪神社と四日町神宮寺観音堂の俳句の献額を候補とすることに決定。数ある市内の献額中からの選考理由等につき意見交換がおこなわれた。また報告の中では、馬場上遺跡を最優先とする報告書作成計画も報告された。狐城への対応は以下の通り。

*事務局委員と現地視察	6月19日
*事務局地権者より聞取り	6月20日
*事務局と委員対応会議	6月21日
*事務局中条地区振興会幹部と会合	6月24日

◆第2回 9月25日（火）午後1時30分～4時30分  
《出席者》樋熊会長、須藤、田村、大島、庭野、武田各委員。事務局：生越教育長、山田、竹内、菅沼、太田。

### 《内容》

始めに諏訪神社と神宮寺を訪問し、指定候補物件の視察と調査を行なった。いづれも堂宇内に掲げられ、剥落や墨の薄れは見られるものの保存状態はおおむね良好であった。博物館に帰り内容の審議。現状や由来の確認、名称、留意点などが話し合われ、次回に事務局で申請内容を整理し、詳しく審議することとした。又、大島委員から、自身の天神囃子冊子とCD発刊にちなみ、これを文化財指定できないかとの提案があった。

報告では、枯木又龍王池の周辺に圃場整備計画がある旨の報告に対し、委員から事務局に計画の把握

に努め、環境保全に留意すべき点を事業課に申し入れるなど、万全を尽くすよう指導があった。狐城その後の対応と、神宮寺観音堂・山門茅屋根修理完了も報告された。

◆第3回 12月4日（火）午後1時30分～3時30分  
《出席者》樋熊会長、佐野職務代理、須藤、田村、大島、庭野、武田の各委員。事務局：山田、竹内、菅沼、太田。

### 《内容》

始めにこの一年の事業経過報告がなされ、次いで平成14年度文化財課の方針・重点と主な事業について事務局より説明が行なわれて了承された。

事業報告では指定文化財の保存・管理・活用状況、発掘調査、報告書刊行、文化財関連博物館行事、海外展国宝貸出し等が報告されたが、委員より国宝貸出しについては今後どう対応するのかとの問題提起がなされ、事務局案をまとめよう指示された。

次いで本年度指定候補物件2件の内容と指定名称等について、次回答申に向けての審議を行ない、事務局案で指定を進める方向が確認された。

又、再度大島委員から、天神囃子を早めに文化財指定すべしとの提案があったが、事務局としては対象を絞れない現状では現保護条例上難しい旨回答し、今後の検討課題とすることとした。

◆第4回 2月27日（火）午後1時30分～3時30分  
《出席者》樋熊会長、佐野職務代理、須藤、田村、大島、庭野、武田の各委員。事務局：生越教育長、山田、竹内、菅沼、太田。

### 《内容》

指定候補物件、俳句献額2件について審議。全員一致で指定に同意。答申書を教育委員会（教育長）に提出した。その後、新年度の事業と予算について等の報告がなされ了承された。又、国宝貸出しに対する事務局対応について意見交換。今後海外貸出しを禁止するなどの措置が必要との意見が出された。

△文化財保護研修会（中魚沼郡・十日町市社会教育振興会主催） 11月9日（金）午後1時～6時  
於中里村保健センター。テーマ「茅屋根民家を文化財として保存するには」講師：宮沢智士長岡造形大教授。委員6名、事務局4名が参加した。

（竹内俊道）

### 3. 予算と決算

平成13年度予算の特徴は、前年と同様発掘調査関係経費が減少し、遺物整理及び報告書刊行事業関係経費の予算に占める割合が高くなってきてていることである。年度当初の予算は昨年に比べ37.8%減の19,233千円であったが、6月、9月、12月、3月の補正予算を経て、決算は18,934千円となる見込みである。

内容は、大別すると(1)一般経費、(2)文化財保護調査費、(3)埋蔵文化財関係経費からなる。

(1)は文化財保護審議会の開催、文化財課所属の車両維持管理などの経常的経費であり、ほぼ前年並の実績額となった。

(2)では、例年同様の指定文化財管理委託料・補助金のほか、今年度最終年を迎えた県指定建造物の神宮寺観音堂北側の茅屋根修理工事が大きいところである。安養寺円通庵の三本スギの枝打ちや鉢の石仏の記念碑土台改修などを地元人夫に依頼し、人夫賃で支払った。

(3)では、今年度も遺跡の試掘・確認調査事業に国庫及び県費の補助を受け、水沢館跡、狐城の試掘確認調査を行なった。また、継続事業の遺跡発掘調査報告書作成事業では、馬場上遺跡の報告書14年度刊行に目途をつけることができた。更に、3年目となる緊急地域雇用特別交付金で、出土遺物の整理に取り組んだ。

(岩田恵美子・竹内俊道)

#### ○歳入予算（決算見込）

(単位：千円) ※3月18日現在

12款 国庫支出金		2項 国庫補助金	5目 教育費国庫補助金	
節	説明	予算額	決算見込額	
4. 社会教育費補助金	25. 遺跡調査遺物整理補助金	2,000	2,000	
13款 県支出金		2項 県補助金	7目 教育費県補助金	
3. 社会教育費県補助金	20. 遺跡調査遺物整理補助金	1,000	1,000	

※他に、労働費予算で緊急地域雇用特別交付金事業補助金2,460千円がある。

#### ○歳出予算（決算見込）

(単位：千円、千円未満切り上げ) ※3月18日現在

節	説明	予算額	決算見込額
1.報酬	文化財保護審議会委員報酬188・嘱託職員報酬4,800	4,988	4,932
7.賃金	臨時職員賃金2,612・発掘調査人夫賃金1,560 遺物整理人夫賃金1,914・文化財保護人夫賃金ほか184	6,270	6,249
8.報償費	指導者謝礼ほか	440	426
9.旅費	費用弁償45・普通旅費30	75	68
11.需用費	消耗品費546・燃料費8・食糧費3・印刷製本費1,737・修繕料163	2,457	2,418
12.役務費	手数料21・保険料40	61	59
13.委託料	地形測量260・指定文化財管理522・遺物整理作業2,460	3,242	3,240
14.使用料ほか	コピー使用料310・発掘用重機借上料133	443	401
16.原材料費	遺構保存用原材料	50	50
18.備品購入費	文化財資料150・参考図書備品10	160	157
19.負担金ほか	指定文化財保存修理事業費補助金	920	920
22.補償料ほか	笛山遺跡指定補償料	83	0
27.公課費	自動車重量税	14	14
合計		19,203	18,934

## II. 指定文化財

### 1. 新指定の文化財

平成13年度には、有形文化財2件を市指定文化財に指定した。これにより市の指定文化財件数は合計45件となった。(巻末指定文化財一覧表参照)

#### 四日町神宮寺観音堂 明和元年の俳句献額 一面

四日町の神宮寺観音堂内にある魚沼地方最古の俳句献額。蕉風俳諧のほか雜俳を含む珍しい額で、妻有の文芸・俳諧史上貴重であるほか、他地域の文化交流を探る好個の資料である。

《種別》 有形文化財 歴史資料

《所有者・管理者》 神宮寺住職 竹内道雄  
《文化財の現状》

額は厚さ2cmほどの桐材に縁を付けたかなり大きなもので、幅446cm、拝殿梁間2間の間にちょうどよく納まる寸法である。縦の長さは110cmほど。額面は桐板20枚を縦組みにし、糊粉を施して墨書している。周辺は12cmほどの黒塗り縁を廻している。

堂宇の中に飾られ、風雨や自然光に曝されなかつたため保存状態は良好である。製作後230年以上も経過したものとしては傷みも少なく、ほとんどの句が読み取れる。額面中四季発句題の中に2カ所、79章の作者と80章の後部5音が消失しているほか損傷はごく僅かである。ただ、長い年月を経て來ただけに、糊粉はほぼ剥落している。今後とも、急激な環境変化を避けた慎重な保存が望まれる。

#### 《文化財の由来と概要》

この額は明和元年(1764)8月に神宮寺観音堂に奉納された俳句額である。当時の観音堂は現在の堂ではなく、それ以前からあったお堂であり、折しも現在の山門が建造の最中であった。そのことは十日町・樂水の「又休めとてや時雨の二王門」の句からも情景を思い浮かべることができる。

この奉納句は、宝暦13年(1763)の秋、高山村の露川と千手町の吟貞が諸願をたてて願主となり、千手の桂雪、十日町の陶々が取り次ぎ、近在近郷を始め越後国内、はては隣国(越後)の俳人に呼びかけて広く募集したものである。

この呼びかけに応じて集まった句は、遠く越中や

信濃を始め長岡、蒲原、柏崎、小国、小千谷、堀之内、塩沢、上田からのものを含め総寄句は3,572句であった。この総吟中から選句をされて上額されたのは131句で、選者は十日町の扶老亭菊仙である。

なお、明和元年にまで遡る句額は、現在魚沼では見当たらず、県内でも最も古い献額の一つであると言える。

額面前段にある「俳諧奉納序」の中で選者菊仙は、「それ蕉門あり、獅子門あり、麦林の風流あれどひとりかたよらぬ道をたどりて佳作のみをひろいあげたり」と述べており、この頃の妻有俳壇には、いくつかの流派が存在していたことが分かる。

また、入選者を妻有に限っての村別にみると、十日町が13名、千手が7名で多く、吉田山谷が5名、その周辺部の稻葉、中条、馬場、下条の各2名、四日町と尾崎、伊勢平治が1人づつとなっている。このことから川東では十日町とその周辺で、川西では千手とその周辺の村々で俳諧が広まっていたことも窺える。毎年定期市が立ち、各地との交流が深く商用で上方や東都とも頻繁に往来がしていたであろう十日町や千手の商人から、俳諧は漸次浸透していくのではないかと推定できるのである。

この額には俳句のほか、笠付けや前句付けなどの古典雜俳も見られて楽しい。笠付けは題の5字の意を受けその内容を七・五字で付ける遊びである。前句付けは後に付く繰り返しの七・七を先に示しておき、五・七・五の十七字を前句として詠む言葉遊びである。こういう類の俳句様の言葉遊びを雜俳と呼ぶが、雜俳の見られる奉納額は県内でも数少ない。

ところで、面白いのはこの額の最初の30句ほどが競句形式をとっており、しかも選者が勝敗をつけずに、勝句待といつて観覧者に勝負をあずけていることである。江戸時代には短歌でも仲間同士で競句をやっているが、奉納句の中でその形式を取り入れてあるのは珍しく、希少価値が高い。

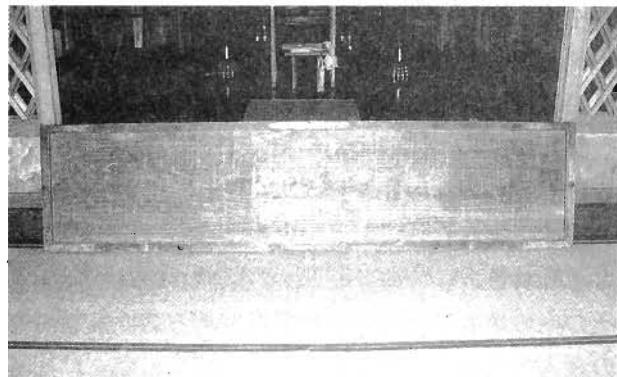
このように、この句額は現存する魚沼最古の句額として高い価値を有していることに留まらず、いろいろな意味から妻有の文芸や俳壇史上を語る上で極めて貴重な資料であると言える。更に、当方が俳句を通じて広く全国各地の人々と豊かな交流があったことを具体的に示す好個の資料である。

### 《その他参考となる事項》

神宮寺観音堂にはこの額の他、天明2年（1782）と天保7年（1836）のものが一面づつ、安政5年（1857）のものが二面、明治年代のもの二面、平成になってからのもの一面と併せて八面の奉納句額が奉納絵馬類とともに掲げられている。中峰尊奉納一面（明治年代？）を加えて、一字に九面も句額がある所は珍しい。

### 十日町諏訪神社 安永七年の俳句献額 一面

十日町の諏訪神社本殿内陣に掲げられているこの献額は、文芸、特に妻有俳諧史の中で蕉風俳諧の隆



安永七年の俳句献額（十日町諏訪神社）



明和元年の俳句献額（神宮寺観音堂）



同上 計測作業



調査風景（神宮寺観音堂）

盛を語る上に欠くことのできないものである。また、この地が、縮商いを通じて江戸や京などとの文化的交流が活発であったことを裏づけるとともに、当時の妻有の俳人の動向、その社会階層と交流などを伺い知ることができる貴重な資料である。

### 《種別》有形文化財 歴史資料

《所有者・管理者》 諏訪神社 佐伯也寸子

### 《文化財の現状》

額は桐の一枚板を横置き上下2枚合わせとし、縁には杉材を用いている。縁の正面上下と四隅に意匠金具を付け、金具間6カ所に十六瓣の菊の紋章を打ち付けてある。寸法は外寸で縦60センチメートル、横252センチメートルである。

額には奉納の文字から始まり俳句62首と俳人名、願文や詞書が書き連ねられており、最後に奉納した年月が記されている。

額面は当初、金箔を貼り付けて絵も描かれていたようだが、剥落していて絵柄は読み取れない。また、材質自体の保存状態はおおむね良好ではあるが、墨書文字はかなり薄くなっていて読みにくい。慎重な保存が必要である。

### 《文化財の由来と概要》

この額は安永7年（1778）8月、上村山之によって奉納された俳句額である。山之は当時、十日町の六軒問屋のうち最上屋と呼ばれた縮問屋の5代目当主で、与兵衛光邦と名乗った人である。

この年7月、俳諧中興期の巨匠の一人として知られる無為庵樗良が十日町に入り2か月ほど滞在している。樗良は山之のもとで俳句の指導をしたものと思われるが、この樗良の十日町入りを機に、山之が有志と句会を催し、その句を奉納したものである。

奉納額の筆跡は樗良の手になるもので、樗良はそ

の中で、「杉の月清きなみたをこほしけり」と自作の一句を記している。

額には、冒頭に山之が親しんだ遠国俳諧名士で、諏訪社を詠んだ15名の句が記してある。いずれも十日町を訪れ諏訪の社を拝して吟詠したものに違いない。山之を訪れ、或いは山之に招かれて詠んだ作品と思われる。

その内の地名がない9名は故人であるが、筆頭の京の羅人の「宮作りいつくもおなし穂屋の塵」は社殿改築のさまを詠んだものであろう。すると諏訪社社殿改築の延享4年（1747）の句ということになる。

二番手の「清く清き越後縮やしら幣」は江戸深川の湖十の詠句である。湖十は宝井其角門下で名を成した初代か二代目湖十であろう。どちらも宝暦（1751～1763）以前の山之の句友であることに違いない。

いずれにしても、ここに掲げられた人々は俳諧中興期に各地で活躍をした著名な俳人ばかりで、俳人山之の交友の広がりを知る上で好個な資料となっている。また、このことは、羅人、湖十、樗良など芭蕉の流れをくむ蕉風俳人たちが、俳諧中興期の早い時期から、十日町に芭蕉流俳諧を扶植したことを物語っていると言えよう。

このほか越後の俳人では、高田の畠波、出雲崎の以南、堀之内の徐々坊をはじめ宝暦以前から俳諧宗匠として重きをなした15名の句が入っている。

この奉納額に見える妻有の俳人は、水沢の吟志、上野の馬千、十日町の菊仙・夕水・友枝・大鱗・維石・素睦・陶々・芦曉・仙魯・百明・六明・二潮・志得・二松・可有・枝白・山尾・和水・桃路と願主山之の21人である。この21人が樗良を囲んで開かれた句会に参加したのであろう。中でも維石・素睦・山尾・桃路等縮問屋と関係のあった人々が多い。

額面には句額の願意が、風雅の願いを起こし、俳諧の愛好者たちが集まり、その句を納め、この道が永久に繁茂する松のように栄えあれと祈願するものであると述べられている。

このようにこの献額は、文芸、特に妻有の俳諧史の中で蕉風俳諧の隆盛を語る時、欠くことのできないものである。またそれだけでなく、この地が、縮商いを通じて江戸や京などの文化的交流が活発であったことを裏づけるとともに、当時の妻有の俳人の動向、その社会階層と交流などを伺い知ることができる貴重な資料である。

### 《その他参考となる事項》

上村 山之（1711～1805） 江戸中期の妻有を代表する俳人。根津桃路と並び称される。『雪の集』『杖日記』など句集著作も多い。

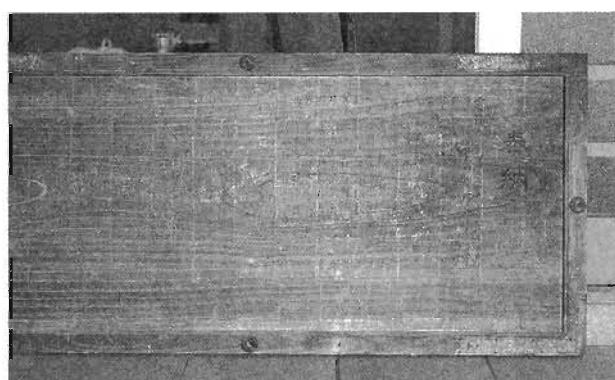
無為庵樗良（1729～80） 伊勢の人。本名三浦元克、字冬卿、通称勘兵衛。蕪村一派とも交わり俳壇の重要な位置を占めた。著書に『白頭鴉』など。

### 【参考文献】

『十日町市史』通史編3近世（1996）、資料編5近世二（1993）

『つまり俳諧と俳人たち』 十日町市博物館（1990）

「四日町観音堂の奉納俳句」須藤重夫 つまり31・32号（1982）



諏訪神社献額 冒頭部分



諏訪神社献額 年号部分



調査風景（諏訪神社）

## 2. 指定文化財の保存と管理

### ■指定文化財標柱設置事業

文化財に指定された物件について、その存在を明確にし、広くその存在を知らせる意味で、屋外の指定物件（建造物、史跡、名勝、天然記念物など）を対象に文化財標柱を設置している。標柱は木柱のため数年で朽ちてしまうので立替えが必要となる。13年度には腐蝕が著しい「安養寺円通庵の三本スギ」と「高龍神社社叢」の標柱を立替ええた。

費用 各々37,800円 施工 田順アート

### ■指定文化財説明板設置事業

標柱と同様、屋外の指定物件に順次設置している。指定文化財に近接して設置し、文化財の概要などを記して見学者の便をはかるとともに、文化財の保護意識を育むことを目的としている。12年度で屋外の指定物件についての説明板設置は完了しているため、今年度の新たな設置はなかった。

### ■文化財保存管理委託・補助事業

市教委では、指定した文化財の保存・管理等のため、所有者・管理者に対し管理委託と補助を定額で行なっている。管理委託の対象となる文化財は、清掃・雪囲い・除雪などが必要な屋外の物件であり、補助の対象は、無形民俗文化財のうち伝承にかかる内容のみである。内訳は巻末資料参照（23頁）。

### ■文化財保存修理事業

(1)県指定の建造物「神宮寺観音堂・山門」茅屋根葺替工事が、平成8年度から6年計画で行なわれている。最終年次にあたる13年度は観音堂北側屋根の葺替工事を実施した。市は総額の1／4を事業主体者に補助している。

工事名	神宮寺観音堂茅屋根北側葺替工事
工事期間	平成13年6月1日～7月26日
事業主体者	神宮寺
工事担当者	茅葺職人 斎木春治、大津秀夫、大津正美 岡田一彦
工事費	3,200,000円
(内訳)	新潟県 1,600,000円 十日町市 800,000円 神宮寺 800,000円

### ■その他

#### (1)鉢の石仏指定地内石塔及び周辺補修

鉢の石仏指定地内で、道路脇にある石塔基盤が、緩んでいて危険の上、背後の斜面が崩落し管理上不都合である旨、管理者から連絡が入った。担当者は現地確認後、保存会と協議して、地元保存会で対応するよう依頼。費用は、工事に携わった作業員の人夫賃金として予算の範囲で支出した。

#### (2)安養寺円通庵の三本スギ枝打ち

天然記念物安養寺円通庵の三本スギの管理者から、折れた枝や枯枝が樹木上に引っかかっており、落下の危険がある旨連絡があり、担当者現地確認。

地元で対応するよう指導し、鉢の場合と同様、費用は、工事に携わった作業員の人夫賃金として予算の範囲で支出した。

#### (3)所蔵文化財資料の整理と補修等

人夫賃金を使い、重文指定物件内の金物資料を手入れし、民具資料等の補修及び整理を行なった。

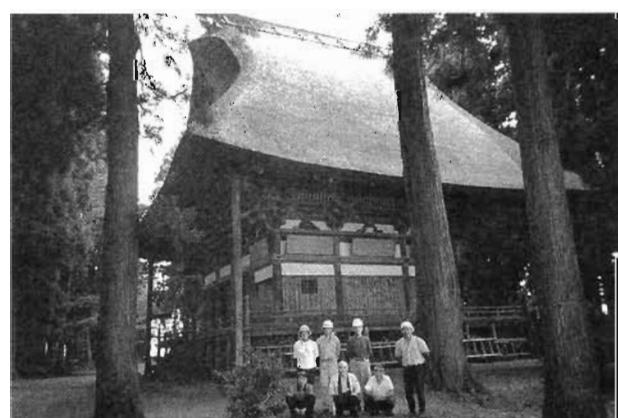
#### (4)文化財指定予備調査及び研修

3月7・8日、建築史の専門家、跡見学園女子大学の荒木伸介教授をお招きし、市内の建造物の予備調査を行なった。その後、職員・関係者に文化財資料の保存と活用について講演をいただいた。

また、3月19・20日には、江戸東京博物館の佐々木秀彦学芸員から、博物館資料の活用を中心にご指導をいただいた。

#### (5)銃砲刀剣類等登録取り扱い

13年度の登録取扱いはなし。



神宮寺観音堂茅屋根北側修理完了

（竹内俊道）

### III・埋蔵文化財

#### 1・試掘・確認調査の概要

平成13年度の十日町市における発掘調査の内訳は、確認調査2件、試掘調査2件の合計4件で大半が市南部の水沢地区において行なわれた。これらの調査原因は、土砂による埋め立て事業、畠地の復旧事業、宅地造成事業、土砂採取事業によるものである。調査面積は近年になく小面積であったが、出土遺物は比較的多彩である。以下に調査の概要をまとめる。

##### 確認調査

###### ① 狐城跡（市内中条峠地内）

狐城跡は、厚生連中条病院の南方約700mのしづづ川右岸段丘突端部に位置する。標高は、約125mである。本城跡は南北のほか、東方部についても、しづづ川の浸食を受けた自然地形（沢）を堀として活用した砦跡と思われる。近年、工事残土等で埋め立てる計画あり、5月中旬～6月上旬まで確認調査を行なった。調査面積は、約294m<sup>2</sup>。時期としては、その遺物等から縄文中期、中・近世の複合遺跡と考えられる。

発見された遺構は、時期のごく新しい畠の畝跡、中世期と思われる空堀跡、ピット（柱跡）等である。空堀は遺跡南側からの侵入を防ぐために急斜面の法尻に幅1m、深さ1mで確認された。発見された遺物は、縄文土器、打製・磨製石斧、剥片、石核、砥石、珠洲焼等の陶磁器類である。本城跡は、南北約120m、幅約25mの舟形を呈し中央には、深さ1.5mの空堀があったとされるが、現在は埋められている。



調査のようす（狐城跡）

江戸期の「十日町組地誌書上帳」に、「狐城」と記載される等古くから知られていた城跡である。

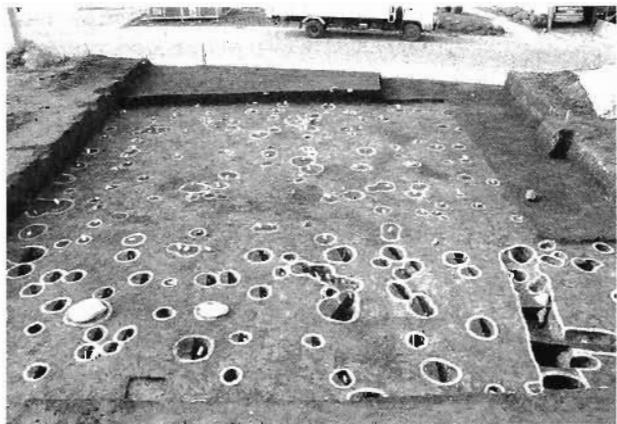
###### ② 水沢館跡（市内水沢）

水沢館跡は、JR越後水沢駅の南西約150mに位置している。信濃川によって形成された河岸段丘上にあり、南には水沢川が流れる。標高は、約200mである。現況をみると、館を取り囲むように東側に空堀（現在は田）や土塁の跡が今も残る。

館跡は、字「城」の地内にあり、近くには、「寺前」、「寺後」、「中丸」、「上町」など中世集落を形成すると思われる字名が見受けられる。また、東方約650mには、この館の要害城と考えられる桃山城がある。館跡は、平成2年に市道水沢城内線の改良工事に伴い、約800m<sup>2</sup>の発掘調査が行なわれている。その結果、遺構として西側と北側に空堀の内側部分の掘り込みや底面のほか、柱穴が発見されている。遺物は、中国産の陶磁器類や国産の珠洲焼、瀬戸・美濃焼等も出土している。

今回の調査は、堀の内側の郭部分に宅地造成の計画があったことから、10月中旬～12月初旬に約150m<sup>2</sup>調査を行なった。

発見された遺構は、溝跡や柱穴が検出している。溝跡は深さ約50cm、幅約40cm、調査範囲が限定されているため長さは分からないが、確認されているだけで約400cmである。建物に付随して掘られているものと思われるが、詳細は不明である。柱穴については、直径約20cmのものから40cmを超えるものまであり数量にして約250基、確認されている。平成2年の調査成果と合せ、今後、十分に検討していきたい。



柱穴のようす（水沢館跡）

遺物は中世の珠洲焼、瓦質土器、土師質土器、青・白磁、茶磨、錢貨などのほか縄文時代の打・磨製石斧などがある。

### 試掘調査

#### ① 桃山遺跡（市内馬場地内）

桃山遺跡は、J R 越後水沢駅の東方約650mの河岸段丘上に位置している。標高は約295mである。

昭和49（1974）年には、国営苗場山麓第三地区総合農地開発事業に伴い試掘調査が行なわれ、縄文時代早期、中期から後期の土器片が出土している。現況は萱野である。今回、畠地復旧の計画があり、再試掘調査を実施した。

試掘坑5箇所すべてで多量の縄文土器片や剥片類が発見され前回調査を補完する成果が得られている。また、新たに柱穴が確認されたことから集落遺跡である可能性が極めて高くなつた。近くには当間高原リゾート開発事業に伴い発掘調査を行なつた椿池遺跡、大井久保遺跡、ほんのう遺跡、なんぜん萱場遺跡などの同時代の遺跡があり、それらとの関連が注目される。



出土した遺物（桃山遺跡）

#### ② 宮栗北遺跡（市内土市）

宮栗北遺跡は、J R 土市駅の西方約300mに位置している。信濃川河岸段丘上の二石川左岸に隣接しており、周辺は宅地化が進んでいる。

本遺跡は、土砂採取事業に伴い試掘調査を実施し、新しく発見された遺跡である。縄文時代中期の土器や打・磨製石斧、石核、石皿、剥片などが出土している。調査は、11月中旬～11月下旬に約100m<sup>2</sup>の範囲を行なつた。柱穴や土坑と思われる遺構が発見されている。近くには、宮栗遺跡、宮栗上原遺跡、横割遺跡など同時代の遺跡がある。



出土した遺物（宮栗北遺跡）

### 整理作業

発掘調査の結果、出土した遺物の水洗・注記・（1次整理）分類・整理・接合・復元（2次整理）を行なつてある。

確認・試掘調査で出土した遺物については、国・県の補助事業経費の中で1次・2次整理等を行い『平成13年度十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書』に一部まとめられる。また、野首遺跡（平成7・8年度調査）と寿久保遺跡（平成9年度調査）の出土遺物については、緊急雇用対策事業（3年継続の3年目）において、1次整理作業を行なつた。寿久保遺跡については、ようやく土器の水洗・注記に目途が立つようになった。野首遺跡については、残存状態の良い土器片について復元作業が進んでいるが、依然として膨大な量の遺物が水洗いもできず残っている。また、本年は原田B遺跡（平成9年度調査）の2次整理（拓本・実測）についても開始した。今後も事業が続く限り整理作業を進め、発掘調査の成果を1日も早く報告書という形にまとめ、市民や考古学等研究者に対し開示していくことを願つてゐる。

（太田喜重）



整理作業のようす

## 2. 発掘調査報告書刊行事業

『笹山遺跡発掘調査報告書』の刊行に引き続き、平成10年度後半より開始された馬場上遺跡の発掘調査報告書作成作業も本年度で4年目を迎えた。平成11年度より本事業は、十日町市長期発展計画の中で継続事業として位置付けられてきた。そして、各年度ごとに470万円の予算が認められ、今日にいたっている。今年度は、担当職員1人、調査研究員1人、補助員2人の体制で作業を進めた。

土器実測図の点数は、約1,400点である。その内800点のトレースは昨年度までに終了しており、今年度は残り600点のトレースを行った。トレース作業については、『年報』5にあるとおり時間とコストの面から業者に委託している。トレース終了後は、図面と土器の照合作業を行い、土器観察表の作成に入った。記入項目は、図版No.、遺物No.、出土位置、種別、器種、口径、底径、器高、胎土、色調、焼成、遺存率、手法、備考、時期である。

この過程で、未実測図の土器の存在が判明したため、追加の実測とトレースを行った。また、これに並行して、写真撮影も行っている。

来年度予算に報告書印刷費が210万円認められたことから、予算の範囲内で報告書を刊行したい。予定している報告書の体裁・目次構成などは以下のとおりである。

名称：『馬場上遺跡発掘調査報告書』

十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集

体裁：A4判、横書・一段組

頁数：本文・観察表 100頁 図面図版 100頁  
写真図版 50頁 計 250頁

印刷部数：500部

目次構成

第Ⅰ章 遺跡の環境

1. 地理的環境 2. 歴史的環境

第Ⅱ章 発掘調査の概要

1. 調査の経緯と体制 2. 調査の方法

3. 基本層序 4. 整理作業

第Ⅲ章 古墳時代の遺構と遺物

1. 遺構 2. 遺物

第Ⅳ章 奈良・平安時代の遺構と遺物

1. 遺構 2. 遺物

第Ⅴ章 中世の遺構と遺物

1. 遺構 2. 遺物

第VI章 総括

1. 古墳時代 2. 奈良・平安時代

引用・参考文献 観察表 日本語要約 英文要旨  
なお、平成17年度までの発掘調査報告書の刊行事業計画は、下の表のとおりである。遺物が市指定文化財に指定されている重要遺跡を優先して報告書を刊行する計画となっている。  
(菅沼亘)

遺跡名	遺跡の概要	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	担当
馬場上遺跡	調査年：昭和49・50・55・59、平成12年 時代：古墳、奈良、平安、中世 豎穴住居50軒、掘立柱建物9棟などが検出されている県内有数の古代集落。出土品は、市指定文化財(平成2年)。	整理 4,700千円	9月刊行 2,100千円				阿部菅沼補助員2
伊達八幡館跡	調査年：昭和62年 時代：縄文、中世 それぞれが空堀によって区画された主郭と副郭をもつ居館跡である。出土品は、市指定文化財(平成11年)。		整理 2,768千円	3月刊行			阿部菅沼補助員2
幅上遺跡	調査年：平成2年 時代：縄文中期 掘立柱建物30棟、豎穴住居11軒、土坑7基よりなる環状集落跡である。出土品は、市指定文化財(平成12年)。			整理	9月刊行		菅沼補助員2
野首遺跡	調査年：平成7・8年 時代：縄文中・後期 豎穴住居12軒、掘立柱建物6棟、配石遺構28基(後期)、土器捨て場(中期)などからなる環状集落跡である。	整理	整理	整理	整理 3月刊行		菅沼補助員2

重要遺跡発掘調査報告書刊行計画

# VI. 調査・研究

## 十日町市博物館の織物資料整理 一明石ちぢみを中心として一

林 真子

### はじめに

織物資料は、十日町の織物産地としての歴史を物語る重要な資料であり、地域博物館としての当館には欠かせない柱の一つである。これらの資料は、適切な分類整理と保存管理が行われることにより、調査・研究やそれに基づく展示・教育普及に活用され得るものである。

これまで、織物の資料整理は行われてはいたが、収集資料の増加に伴い、いまだ写真撮影すら済んでいない資料も多くなっていた。また、カード化・台帳管理も、国重要文化財として指定を受けた越後縮以外は行われておらず、資料のデータ分析は、学芸員の経験と勘に頼るほかなかった。

このような状況の中で、平成13年1月、「歴史遺産の十日町織物を保存し地域振興をはかる会」（平成9年2月設立・会長 燕木良吉）がこれまで収集した織物資料約600点を博物館で受け入れることが決定した。これを受け入れると、博物館の織物資料収蔵量はほぼ倍増することになる。このため、改めて資料の整理・収納・保存・管理を見直し、資料整理体系の確立および資料のカード化・台帳管理の徹底を行うことになり、現在作業を進めている。

### 博物館収蔵資料の現状

織物資料は博物館全体の収蔵資料体系に次のように位置付けられる。

### 博物館資料

- 1 考古
- 2 歴史
- 3 民俗
- 4 織物
  - 寄贈資料
  - 他産地物
  - 寄託資料
- 5 美術系
- 6 その他

その位置付けの中で、館収蔵織物資料については

十日町産地物と他産地物に分け、さらに十日町産地物の中でも、特に資料数の突出している越後縮と明石ちぢみを区分し、それ以外はその他のものとして一括した。それぞれの資料数内訳は以下のとおりである。

寄贈資料	627点
越後縮	324点
明石ちぢみ	221点
その他 十日町産地物	65点
他産地物	17点
寄託資料	8点
計	635点

これらのうち、平成12年度末の段階で、写真撮影の済んでいない未整理資料は247点にも及んでいる。

### 分類と整理

まず取り掛かるべきは、未整理資料の把握と写真撮影である。その後、資料分析をし、カードにデータを記載する。それを元に、織物の種類ごとに分類・整理を行うことになる。

未整理資料の写真撮影は、予算も限られているため、十日町産地物を優先的に行った。その結果、平成12年度末までに、十日町産地物のうち、重要文化財指定後に収集された越後縮以外については、ほぼ撮影を終了した。さらに、明石ちぢみの資料分析を専門家である松山円次氏と羽鳥毅氏にお願いした。

そして、今年度より、撮影が終了している明石ちぢみとその他の十日町産地物から順次カード作成を始めた。カードは「歴史遺産の十日町織物を保存し地域振興をはかる会」で作成・使用している様式に統一することにした。（図1参照）

カード作成を終えると、それぞれの着物の種類ごとに分類を行う。

分類整理をするにあたり心がけたことは、①保存管理がしやすいこと、②分かりやすく、誰もが利用できる分類にすること、③将来のデータベース化を見据えて、単純化・記号化しやすい分類にすることである。

この原則を踏まえ、明石ちぢみについては、長着・羽織・綿入れなどの「形態」、男物・女物などの「使用者」、縞・格子・絣などの「模様」に着目し、細分化した。その他の織物については、数が少ないため、それぞれの「品種別」と「使用者」によって大まかに分類するに留まった。

越後縮と他産地の織物については、写真撮影・カード作成が終了していないため、引き続き整理作業を行っている。よって、分類の詳細については、稿を改めたい。

### 織物資料の内容

前段でも触れたが、整理が終了しているのは明石ちぢみとその他の十日町産織物の一部である。

そこで、ここでは特に明石ちぢみについて表1に基づいて概要を紹介する。

明石ちぢみは、明治の終わり頃から大正・昭和初年にかけて、一世を風靡した盛夏着尺である。

博物館では、開館当時から収集活動に励み、現在までに、221点保管されている（寄託品を除く）。

その内訳は、長着219点、羽織1点、綿入れ1点となっている。

長着を細かく見ると、使用者別では女物193点、男物23点、子供物3点であり、9割近くを女物が占めている。

地の模様は、女物では多い方から縞36.3%、絣28.5%、縫取のみ19.7%、格子5.7%、抜染加工4.1%、緯段3.6%、無地2.1%という割合になっている。それに対し、男物では緯段43.5%、縞26.1%、無地17.4%、格子13.0%の順に資料数が多くなっていて、縫取のあるものは全く見られない。

ただし、今回の整理では縫取よりも地の模様を優先して分類したため、このような内訳となったが、女物のうち、縞・格子・絣・緯段の縫取のあるものと縫取のみを合わせると、計100点となり、縫取が入っているものはほぼ半数に上っている。このことから、明石ちぢみにおける意匠研究による縫取加工技術の向上と消費者の需要傾向が伺える。

また、十日町織物同業組合史によると、明石ちぢみの年生産高は明治末から大正期にかけて年々増加し、昭和7年にピークを迎えている。館収蔵資料においても年代別に見てみると、明治期が4点、大正期47点、昭和初期168点、その他不明2点と、同様の傾向を示している（表2参照）。

### 活用を考える

収集した織物資料については、今まで常設展示の資料入替や特別展・企画展における展示公開等で活用を図ってきた。

ただ、今の常設展示室ではスペースが限られているため、展示入替をたびたび行っても、収蔵資料が人目に触れられる機会は多いとはいえない。特別展でも、越後縮については重要文化財資料が多く展示されるため、収集後そのまま収蔵庫に眠っている資料も少なくない。そのため、毎年雪まつり期間中に「新収蔵資料展」と称して、新しく入ってきた資料を中心に紹介し、多くの人に知ってもらう場を設けている。

今後は、博物館での展示公開はもちろん、「きもの歴史館」での活用や、新しい試みとして、イベントへの貸出や織物資料を利用した体験企画等も検討する必要がある。

これらの活用を推進していく上で、今後、資料のデータベース化が必要になってくる。

これによって、織物資料のデータを簡単に管理・検索できるようになれば、資料貸出や展示入替を始めとする、学芸員の日々の業務を効率よく行うことができる。また、織物研究の基礎資料として、市民に対して地域研究の素材を提供できるであろう。

### まとめ

現在行っている織物資料整理体系の見直しは、「歴史遺産の十日町織物を保存し地域振興をはかる会」の資料移管が一つの大きな要因である。移管完了後には、それぞれの整理体系のすり合わせを行い、より管理しやすい形に修正を重ねる必要がある。

また、保存管理上の問題として、資料の増加により収蔵スペースの確保が困難になってきている。今後の課題の一つである。

今回試みた分類整理は、博物館での展示入替の容易さや保存管理のしやすさを主眼にしたものとなっている。したがって、技術面からのアプローチや専門的な研究対象としての分類という点ではまだ研究の余地が残されている。今後、さらに検討を重ね、よりよい資料整理を目指していきたい。

最後に、長年、館の織物資料整理の諸作業に携わっていただいている山口真佐子氏のご協力に感謝申し上げたい。

## 引用・参考文献

- 十日町市史編さん委員会 1997 「十日町市史」  
 十日町市役所  
 滝沢栄輔 1958 「十日町織物の歩み」  
 十日町織物工業協同組合  
 十日町織物同業組合編 1940  
 「十日町織物同業組合史」十日町織物同業組合

十日町市博物館資料基本カード（十日町織物）

受付番号		受付日	年	月	日	受付者		
保存方法	1. 寄贈 2. 寄託 3. 登録 (・寄贈可・寄託可・出品可・未定)							
分類	1. 着物 2. 羽織 3. コート 4. 帽 5. 製地 6. 小物 7. 見本帳 8. 文書類 9. その他							
品名								
素材	1. 絹 2. 麻 3. 絳 4. その他 ( )							
品種	1. 地 2. 郡召 3. 斜 4. 白生地 5. 明石 6. 夏物 7. 縮 8. その他 ( )							
製作年代	年代	1. 明治以前 2. 明治(前・中・後) 3. 大正(前・後) 4. 昭和(前・中・後)						
製造		販売						
製品解説								
解説者								
提 供 者 氏 名				ファイル名				
住 所				電 話	( )			
電 話	( )			電 話	一			
				電 話				

図1 十日町市博物館資料基本カード



越後縮

形態	使用者	模様等		
		縞 (70=有23+無47※) 格子 (11=有4+無7)		
		大絣 (17=有12+無5) 十字・井桁絣 (有8) 矢絣 (19=有12+無7) 小絪 (無11)		
		縑段 (7=有3+無4) 無地 (4)		
		縫取 (38) 大 (21) 小 (17)		
		抜染加工 (8)		
	文物 (193)	子供物 (3)		
長着 (219)		縞 (6) 小格子 (3) 縑段 (10) 無地 (4)		
		羽織 (1) 綿入れ (1)		

※有=縫取有、無=縫取無  
表1 館収蔵資料明石ちぢみ整理表（寄贈資料221点）

		明治		大正		昭和		備考	
		前	中	後	前	後	前	中	後
	縞 (縫取有)				1	2	20		
	縞 (縫取無)			2	7	7	31		
	格子 (縫取有)					1	3		
	格子 (縫取無)					2	5		
	大絣 (縫取有)						12		
	大絣 (縫取無)					1	4		
	十字・井桁絣				1		7		
	矢絣 (縫取有)					1	11		
	矢絣 (縫取無)						7		
	小絪				1	1	8		大正1
	縑段 (縫取有)						3		
	縑段 (縫取無)				1	1	2		
	無地		1		2	1			
	縫取 大				1		20		
	縫取 小				1	4	11		不明1
	抜染加工					2	6		
	子供物						3		
男物	縞				2		4		
	格子				1	1	1		
	縑段				3	1	6		
	無地					2	2		
	羽織						1		
	綿入れ								不明1
	計	1	3	19	27	168	0	0	

表2 館収蔵資料明石ちぢみ年代別表（寄贈資料221点）



明石ちぢみ

## 資料紹介

# 宮ノ上A遺跡出土のバチ形石器

菅 沼 亘

### はじめに

ここで紹介するバチ形石器（仮称）は、平成4年（1992）に宮ノ上A遺跡から出土した遺物である。この石器については既に、『十日町市史』資料編2・考古（十日町市1996）において紹介されているが、そこでは詳細な検討ができなかつたため、今回、実測図を掲載し、改めて報告したい。

### 遺跡の概要

宮ノ上A遺跡は市内高島地内に所在し、長樂寺の北東、信濃川左岸の河岸段丘（千手面）上に位置する縄文中期の遺跡である（第1図）。遺跡は、北側を思川による沢、東側を段丘崖に挟まれた舌状の段丘平坦面上に立地する。標高は183m、現況は水田である。

1992年（平成4）、吉田南部地区県営ほ場整備事業に伴い、市教育委員会により発掘調査が行われ、約1,500m<sup>2</sup>の範囲が調査されている。遺構は、掘り込みがあまり明確ではないが竪穴住居2軒と沢状の落ち込みが確認されている。沢状の落ち込みは調査区の西端で検出され、深さ60cm、断面は皿状で、西側に向かって緩やかに落ち込む。

土器は、縄文前期後半～中期後半のものが出土しているが、主体は中期前葉のものである。前期後半の土器には結節浮線文が施されるもの、中期後半の土器には半隆起線による区画内にハ字状の連続刺突が施されるものなどがある。

主体をしめる中期前葉の土器は、新保・新崎式に属するものである。第2図1は、口縁部に二つの突起がつき、口縁部と頸部には横位の半隆起線による区画内に蓮華文が充填されている。胴部には、縦位の半隆起線文が施され、頸部には、「し」字状の突起が4か所に付されている。最大径15.0cm、総高25.7cmである。この他に、地文の縄文に半隆起線が施されるもの、半隆起線による区画内に格子目文が充填されるものなどがある。

石器は、バチ形石器（第2図2）の他に、石鏃2点、打製石斧37点、磨製石斧1点、磨石類22点などがある。なお、バチ形石器は前述した沢状の落ち込みの埋積土中から出土している。

### 石器の記載

基部は乳棒状、刃部は扇状に開き、全体の平面形はボートのオール状、側面形は磨製石斧状を呈する。洋梨形の扁平礫を素材として、敲打によって成形され、表裏両面の基部と刃部の一部に自然面を残す以外は、敲打痕に覆われている。また、残された自然面に研磨痕は観察されない。器体のほぼ中央で欠損しているが、それが製作時のものなのか、または使用によるもののかは不明である。しかし、刃部に使用に伴うと思われる刃こぼれが見られることから、後者の可能性が高い。

基部は、乳棒状磨製石斧の基部と同様な形状を呈し、断面形は不整橢円形で、幅5.83cm、厚さ4.34cmを測る。また、刃部との境界部に向かって、厚みを増して行く。刃部の両側縁は、緩やかにハの字状に開き、その縁辺は弧状を呈する。刃部の縁辺には、自然面が残されている。刃部形状は、円刃の両刃で、断面形は凸レンズ形である。また、刃部先端に向かって薄くなる。

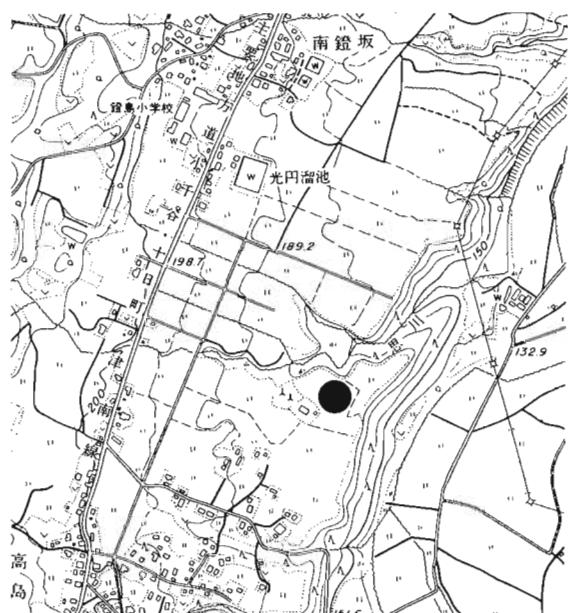
計測値は、最大長22.20cm、最大幅13.12cm（刃部）、最大厚4.34cm（基部）、重量1226.72gである。

石材は、安山岩と思われる。

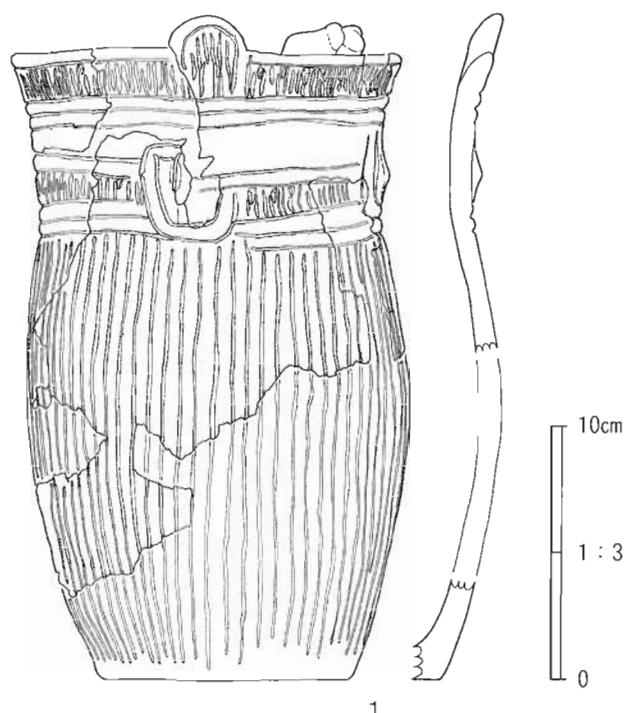
### おわりに

前述したとおり、遺跡からは前期後半～中期後半の土器が出土し、主体を占めるのは中期前葉の新保・新崎式に属するものである。従って、本石器は中期前葉に所属する可能性が高いと思われるが、明確な遺構に伴って出土しておらず、また、土器の出土状況も散漫であるため、その所属時期については前期後半～中期後半としておきたい。

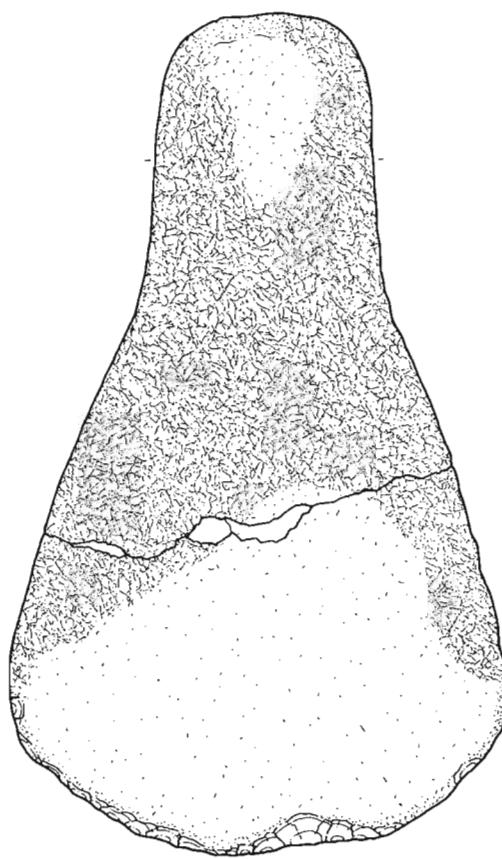
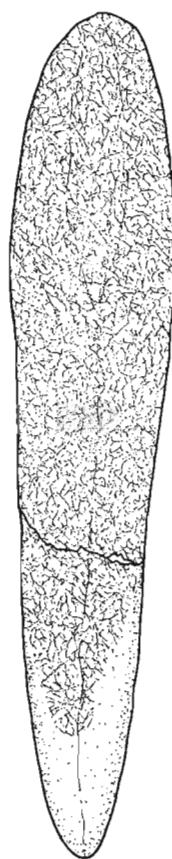
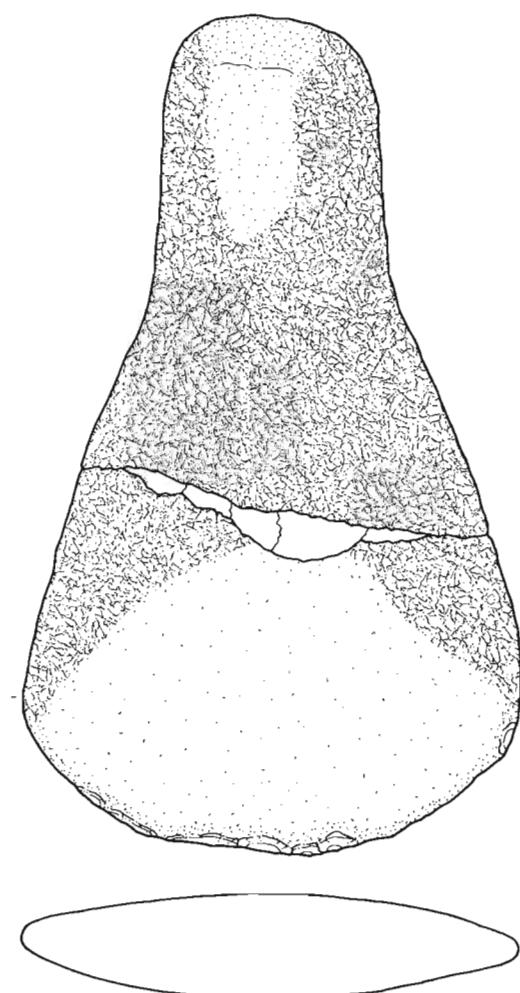
本石器は、基部は乳棒状の磨製石斧、全体の平面形は刃部が極端に広がる撥形の打製石斧状を呈している。両者とも県内の縄文中期の遺跡で少量ではあるが見られる石器であり、この意味で本石器は中期の枠の中で捉えられると考えている。しかし、ここでは仮称としてバチ形石器としたが、現時点では類例が見つかっていない。実用品かどうかということも問題となるが、これまでの縄文時代石器の中では特異なものである。ご教示いただきたい。



第1図 宮ノ上A遺跡の位置 (1:15,000)



1

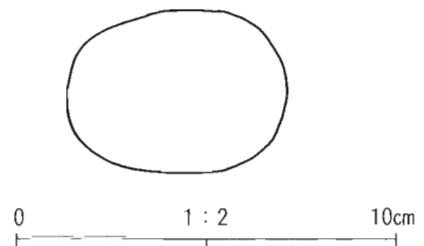


2



敲打痕

第2図 宮ノ上A遺跡の遺物



# V. そ の 他

## 1. 文化財関連博物館事業

平成13年度に行われた文化財に関する各種事業の概要を紹介する。

### 特別展

今年度の夏季・秋季特別展は、残された民具を手がかりに、出土した遺物の中に見られる道具類を検証し、道具の原点を探り、ものづくりの原点を考える連続企画とした。

#### (1) 夏季特別展

「民具から見た縄文の用具1—編・織用具と装身具—」

期間：6月2日（土）～6月24日（日）

会場：博物館特別展示室

館収蔵資料の越後アンギン製品および製作工具、越後縮製品と生産用具各種（重文含む）、出土装身具ほか、服飾研究家の尾関清子氏が復元した縄文の衣服を含め、約200点を展示。期間中の入場者数は1,638人だった。

#### ◆記念講演会

「縄文時代の服飾」

期日：6月10日（日）13:30～15:30

会場：博物館ロビー

講師：尾関清子氏（東海学園女子短大名誉教授）

縄文衣服を実際に復元した体験に基づき、生活学の立場から製作技法や工具についてお話を伺った。さらに当日、幸運にも長野県信濃町で発見されたばかりの布の圧痕がある土器片（縄文時代前期）が聴講者に披露され、有意義な講演会となつた。聴講者数は55名。



夏季特別展 ギャラリートーク

#### (2) 秋季特別展

「民具から見た縄文の用具2—食料調達と食事の用具—」

期間：9月22日（土）～10月14日（日）

会場：博物館特別展示室

福島県荒屋敷遺跡から出土した貴重な縄・籠類や漆塗弓・石斧柄等の木製品類をはじめ、館収蔵資料から縄文土器・石器、漁労・狩猟用具、膳椀や台所用品等の民具など計367点が展示紹介された。期間中の入場者数は1,404人。

#### ◆記念講演会

「木製品の製作技術～木の利用と知恵～」

期日：9月22日（土）13:30～15:30

会場：博物館ロビー

講師：山田昌久氏（東京都立大学助教授）

講師の山田氏は木製品の研究者としては第一人者。特別展示室でのギャラリートークを交えて、現代にも通じる、縄文時代の優れた木材加工技術と活用法について講義していただいた。聴講者数は57名。



秋季特別展 記念講演会の様子

#### (3) 冬季特別展

「博物館収蔵資料展—越後縮を中心として—」

期間：2月15日（金）～2月17日（日）

会場：博物館特別展示室

第53回十日町雪まつり協賛事業として、近世越後の特産品「越後縮」の製品や織機、商い道具等新収蔵資料を中心に60点の資料を公開。期間中の入場者数は356名であった。

火焰型土器No.1愛称・マスコットキャラクター決定  
火焰型土器および笛山遺跡をより広く周知するため、平成12年度から引き続き募集を行つた。募集期間は、3月25日(日)～8月15日(水)。雑誌やホームページへの

掲載が効を奏し、期間中に全国から愛称部門1,064点、マスコットキャラクター部門に334点の応募があった。

これらの応募作品と昨年の佳作作品を併せて審査した結果、愛称は静岡市・内田三夫氏の作品「縄文雪炎」、マスコットキャラクターは、前回佳作だった燕市・信貴正明氏の作品に決定した。

秋季特別展の初日にあたる9月22日(土)には、博物館ロビーにて表彰式が行われ、受賞者には賞金と賞状が贈呈された。

博物館では、この愛称とマスコットキャラクターを使用したリーフレットと封筒を作成し、周知に努めている。また、今後の活用のため、特許庁へ商標登録出願中である。これから、様々な企画やイベント等で活用され、市民に親しまれる愛称・マスコットキャラクターになることを期待している。

火焰型土器No.1 愛称  
じょうもん ゆきほむら  
**縄文雪炎**



マスコットキャラクター



前列左：マスコット部門受賞者 信貴正明氏

### 博物館講座

7月28日(土)～8月18日(土)の毎週土曜日に計4回開講した。

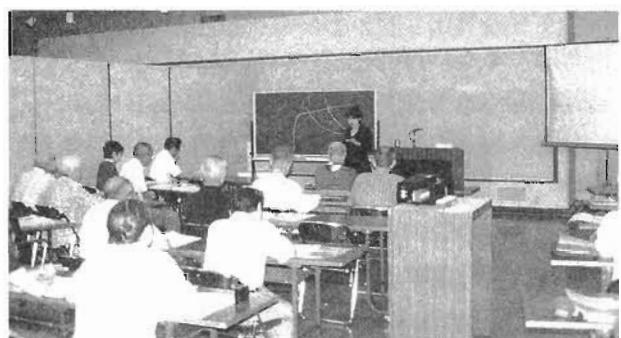
今回のテーマは「モノと暮らしの知恵を学ぶ一道具と技術を考えるー」。特別展テーマと連動させることにより、相乗効果を狙った。

それぞれの講義では、スライドを使って、最新の

情報と知識を分かりやすく解説していただいた。縄文時代以来のモノづくりと暮らしの知恵を学び、モノの歴史や伝統技術の伝承、生活様式の変遷について、理解を深めることができた。また、受講者からの質問も相次ぎ、市民の学習意欲の高さを改めて感じた。

#### 《タイトルと講師および受講者数》

- ① (7/28) 石の利用方法—石器と石製品— 30名  
講師：前山精明氏（巻町教育委員会学芸員）
- ② (8/4) 民具と道具 33名  
講師：久保禎子氏（愛知県一宮市博物館学芸員）
- ③ (8/11) 縄文時代の道具箱 31名  
講師：宮尾享氏（新潟県立歴史博物館学芸員）
- ④ (8/18) 縄文の工芸技術 31名  
講師：小柴吉男氏（福島県三島町文化財専門委員）



講座風景 8/4

### その他

文化財とは直接関連しないが、市民に地域の文化財に関心を持っていただくために、博物館では以下のような事業を展開している。

#### (1) 子ども博物館（博物館友の会共催事業）

小学4～6年生対象

- ①川の中をのぞいてみよう！信濃川で水遊び！

7/30(月) 参加者数 20名

- ②ウォークラリーーはくぶつかん不思議？発見ー

8/5(日) ※無料公開日 参加者数 9名

- ③どんぐりクッキー&どんぐりコーヒーをつくろう！

2/9(土) 参加者数 25名

#### (2) 博物館無料公開日

8/5(日) 入場者数 429名

- ①土器に触れてみよう！

- ②懐かしの映画ポスター展

- ③縄文ビデオ上映会

- ④ウォークラリーーはくぶつかん不思議？発見ー

(林 真子)

## 2. 文化財資料の活用

### 出張授業

昨年度に引き続き、総合学習の一環として市内の小学校より出張授業の依頼があった。日時などは以下のとおりである。

日 時：平成13年7月12日（木） 10：40～12：15

場 所：下条小学校（視聴覚教室）

対 象：6年生42人（2クラス）、先生2人

先生からの依頼が、下条地区の遺跡について話してほしいということであったため、平成8年に同地区で調査を行った野首遺跡（縄文時代中・後期）の話を中心に以下のような内容と時間配分にした。

#### ①下条地区の遺跡の概要説明（5分）

A4判の資料を配布して説明した。資料の表側は野首遺跡のあらまし、裏側は下条地区の遺跡分布図である。

#### ②野首遺跡発掘調査のスライド上映（30分）

発掘調査の様子をスライドを使って説明する。

映写機は持参し、スライドは40枚とした。

#### ③野首遺跡の遺物の説明（25分）

持参した遺物は、石器（平箱1箱）、土製品（1箱）、復元土器（深鉢2・蓋1・小型土器8個体）である。これらを実際に触れてもらいながら、遺物の説明を行った。

#### ④質問の受付（20分）

今後の参考とするため、授業の終了後に生徒に感想文を書いてもらっている。それらを読むと、「土器や石器に触ることができてうれしかった」、「自分の住んでいる家の近くにも遺跡があることがわかつて驚いた」という感想が多く見られた。実際に土器や石器に触れることができた感動は大きかったようであり、実物資料の威力の大きさを実感した。

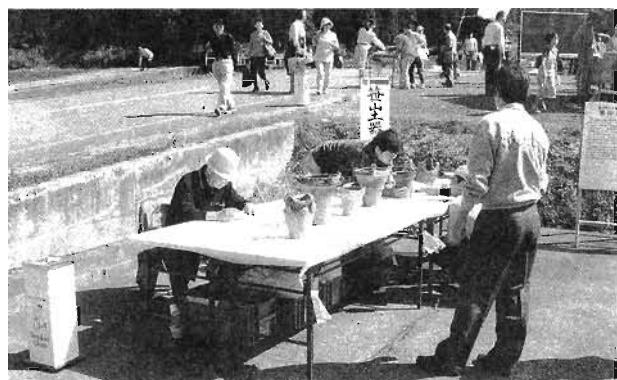
最近、「総合的な学習の時間」（総合学習）において、縄文時代を取り上げる小学校が増えており、古代米作り、土器作り、アンギン編みなどについての問い合わせが文化財課にも寄せられている。全国的に見ても、「出張講座」、「出前授業」などという形で、埋蔵文化財センターや博物館が総合学習に積極的に対応している例が見られる。

今後は、総合学習だけでなく「学校週5日制」に対しても、埋蔵文化財およびその他の文化財の有効利用と合わせて、積極的に取り組む必要が出てくるであろう。

### 笹山じょうもん市

笹山遺跡の所在する中条地区の振興会が主催となって、平成13年10月7日に第2回「笹山じょうもん市」が開催された。昨年は振興会からの依頼により、移動博物館「笹山遺跡とその出土品展」を実施している。今回は、①「触っていいとも笹山土器」、②「アンギン編み」、③「茶店じょうもん」、④「お楽しみゲームひろば」の4つのコーナーでの協力依頼を受けた。

①では、笹山遺跡から出土した国宝指定外の復元土器6個体を展示した。これらの中には、火焰型土器と王冠型土器を含めた。②は、アンギン編みを実演するコーナーであり、アンギンの袖なし（実物1・複製8着）と帯を展示および着用した。③では、市内で採集された石皿と磨石を使用して、ドングリの実を磨りつぶす実演を行っている。④では、土器の接合作業の模擬体験を行った。これは、博物館展示用の土器模造品を割って作られた破片を、パズル感覚で接合してもらうというものである。



触っていいとも笹山土器コーナー



アンギン編みコーナー

このイベントも2回目を迎え、いずれも2,000人を越える来場者があったと聞いている。地域住民による手作りの行事であり、笹山遺跡を広く一般の人々に理解してもらうためにも、今後も協力して行きたいと考えている。

## 野首遺跡展

平成13年11月4日に、野首遺跡の所在する下条・上新田地区の文化祭において移動博物館を実施した。この遺跡展は、野首遺跡の調査が行われた平成8年に1度行われており、今回は2度目となる。前回は、調査が終了して間もない時期で、整理作業も始まつたばかりであったため、復元土器をあまり展示できない状況であった。それから、5年あまりが過ぎて整理作業も進み、復元土器は小型品も含め100個体を越えている。

今回は、火焔型・王冠型土器など復元土器6個体と石器・土製品(平箱6箱)、写真パネル(3枚)を展示了。地元では公民館活動の一環として、陶芸教室が行われており、特に土器への関心が高いように感じられた。参集者は、200人ほどである。



野首遺跡展（上新田文化祭）

## 速報コーナー

速報コーナーは、博物館の常設展示室と考古展示室をつなぐ通路を利用し、最新の発掘調査で出土した遺物を展示する特設コーナーである。今年度は、昨年度に調査した道端A遺跡(縄文・近世)、道下遺跡(中世)、馬場上遺跡(古代)、上塙原A遺跡(縄文中～後期)の遺物を展示了。上述した野首遺跡の復元土器も、入れ替えを行いながら展示している。

また、博物館ロビーの正面ガラスケースでは、平成11年に市指定文化財に指定されている幅上遺跡出土品(縄文中期)の紹介を兼ねた展示を行った。

## 海外展『古代日本の聖なる美術』展

文化庁では、諸外国との相互理解を推進するため、海外において継続的に日本美術展を開催している。今年度は、イギリスにおける大型日本文化事業「JAPAN 2001」の中心事業として、ロンドンの大英博物館において「古代日本の聖なる美術」展(原題: Shinto

The Sacred Art of Ancient Japan、会期: 平成13年9月5日～12月2日)が開催された。

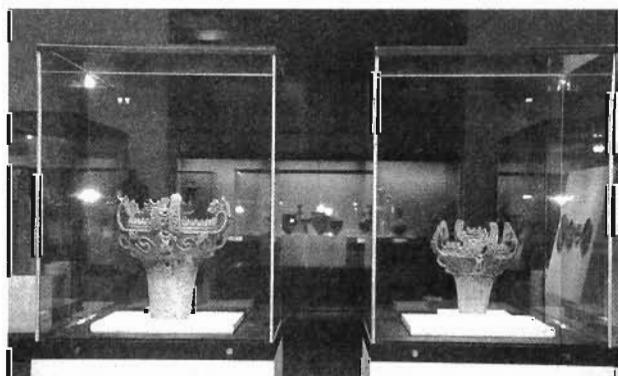
この海外展に、国宝・笹山遺跡出土火焔型土器2点(No.1・6)が出品されている。火焔型土器の海外出展は、平成4年(1994)の「古代の日本」展(ワシントンD.C.)、平成10年(1998)の「縄文」展(パリ)に続いて、今回が3度目となる。



大英博物館正面入口

この展覧会には、国宝7件、重要文化財66件を含む計110件が展示されている。この内、考古資料は55件で、その主なものは青森県風張遺跡合掌土偶(重文)、島根県荒神谷遺跡銅矛(国宝)、兵庫県桜ヶ丘遺跡銅鐸(国宝)などである。展示は、縄文～古墳時代の祭祀遺物と、仏教と融合した日本固有の宗教美術が製作されるようになる飛鳥～室町時代の絵画、彫刻、工芸品によって構成されている。

展覧会場は、アジア館の4・5階フロアで、縄文～古墳時代の考古資料は4階フロアに集められていた。火焔型土器2点は、その展示室入口の正面に並んで展示された。また、展覧会図録『SHINTO』が、24.99ポンドで販売されている。



展示室入口正面に並ぶ国宝・火焔型土器

なお、この展覧会に合わせて、博物館友の会などが主催となり、9月30日～10月6日の日程で大英博物館訪問団が募集され、21名(課職員1人含む)が参加している。

(菅沼 亘)

### 3. 文化財資料の貸出

今年度の文化財（博物館）資料の貸出件数は、80件である。その内訳は、実物資料10件、写真資料（転載、撮影を含む）67件、その他3件となっている。

#### 実物資料

実物資料のうち特別展などへの貸出は、表1のとおり7件である。その内6件は考古資料、1件は民俗資料の貸出であり、例年と同様に、考古資料の貸出が多い。

国宝関係資料では、レプリカも含めて4件の貸出があった。前述した大英博物館での「神道－古代日本の聖なる美術－」展のほか、「岡本太郎と縄文」展（株式会社 NHKプロモーション）、シンポジウム「川の恵みは誰のもの？」（財団法人ニューにいがた振興機構）、「火炎土器と翡翠の大珠－土の芸術、石の美、そして広域交流－」（青森県立郷土館）に貸し出しを行った。青森県立郷土館への貸出は、国宝指定後の文化庁・国立博物館以外の機関への貸出の初めての例である。

また、初めて寄託資料の借用依頼があった。平成

3年に寄託された故石澤寅義氏コレクション（所蔵者・石澤今朝松氏）と島田靖久氏コレクションを、「重要文化財考古資料展－火炎土器と小瀬ヶ沢・室谷洞窟出土品－」（長岡市立科学博物館）に貸し出した。両氏のコレクションには、津南町本ノ木遺跡、中里村田沢遺跡、中林遺跡、壬遺跡など学史にも著名な縄文時代草創期の資料が含まれている。

以上のはかに、小学校の授業や公民館事業に対し、千歯こき、こね鉢などの民具を貸し出している。

#### 写真資料

取材・撮影や転載などを含めた写真資料の貸出は67件であり、表2には代表的なものを示した。資料内容の内訳は、国宝41、考古展示8、雪4、着物4、信濃川1、アンギン3、その他6件であり、国宝および考古関係で全体の約3分の2を占めている。

使用目的別に見ると、教育21、一般（歴史・美術など）16、雑誌（歴史・広報など）6、パンフレット類9、放送7、ビデオ1、その他7件である。ここ数年の傾向であるが、歴史の教科書や副読本など教材関係への貸出が多い。また、初めて海外の出版社より写真掲載の申請があった。（菅沼 亘）

貸出先	特別展	貸出資料	貸出期間	備考
野尻湖ナウマンゾウ博物館	『信濃町の縄文土器－押型文土器と－長野県で一番古い布－』 会期：7/7～11/29	アンギン編み工具、アンギン袖なし、青苧・赤苧の纖維、栗ノ木田遺跡編布压痕土器ほか 計10点	6/29～12/7	観覧料：500円 (常設展と共に)
株式会社NHKプロモーション	『岡本太郎と縄文』展 会期：日本橋三越7階ギャラリー 7/24～8/5 川崎市岡本太郎美術館 8/11～10/8 広島市現代美術館 11/24～1/31	国宝・火炎型土器レプリカ（No.1）、 野首遺跡火炎型土器 計2点	7/19～2/15	観覧料：900円（一般） 図録：『岡本太郎と縄文』（2,000円）
新潟県立歴史博物館	『大地に刻まれた記憶－発掘が語る新潟の歴史－』 会期：7/14～8/19	野首遺跡土器・石器・土製品 計55点	7/9～8/31	観覧料：400円 (常設展と共に)
大英博物館（文化庁）	『神道－古代日本の聖なる美術－』展 会期：9/5～12/2	国宝・火炎型土器（No.1・6） 計2点	8/7～1/8	観覧料：7ポンド 図録：『SHINTO』（24.99ポンド）
財団法人ニューにいがた振興機構	シンポジウム「川の恵みは誰のもの？」 日時：9/14～16	国宝・火炎型・王冠型土器レプリカ （No.1・6・7・8・15） 計5点	9/13～9/17	会場：表参道・新潟館ネスパス (東京都渋谷区神宮前)
長岡市立科学博物館	『重要文化財考古資料展－火炎土器と小瀬ヶ沢・室谷洞窟出土品－』 会期：10/27～12/9	石沢寅義・島田靖久氏寄託資料 (中里村田沢・中林遺跡、津南町本ノ木遺跡)、朴ノ木清水遺跡・伊達八幡館跡石器ほか 計151点	9/21～12/20	観覧料：無料 図録：『重要文化財考古資料展－火炎土器と小瀬ヶ沢・室谷洞窟出土品－』（1,000円）
青森県立郷土館	『火炎土器と翡翠の大珠－土の芸術、石の美、そして広域交流－』 会期：11/16～12/16	国宝・火炎型土器レプリカ（No.1）・ 火炎型（No.10）・王冠型土器 （No.16）・石製垂飾（No.2・3）、野 首遺跡土器ほか 計12点	11/6～12/25	観覧料：310円（常設展と共に） 図録：『火炎土器と翡翠の大珠－ 土の芸術、石の美、そして広域交 流－』（1,000円）

表1 実物資料の貸出一覧（レプリカ含む、2001.4～2002.2現在）

貸出先	出版物	貸出資料	備考
(株)昭和堂	『アジア陶芸史』	国宝・火焰型土器(No.6)	一般(歴史)
國學院大學考古学研究室	『縄文人の世界』朝日選書(英訳版)	笛山遺跡複式炉	一般(歴史)
長野県立歴史館	企画展図録『阿久遺跡と縄文人の世界』	耳飾りをつけた女性(展示)	特別展図録
N H K 日本放送	N H K スペシャル『日本人はるかな旅』	国宝・火焰型土器(映像)	放送
(株)岡山福武書店	『兵庫県入試準拠問題』	国宝・火焰型土器(転載)	教育
	『鳥取・島根県入試対策プリント』		
エム・ワイ企画	『カラー版 日本美術史年表』(株)美術出版社	国宝・火焰型土器(No.1)	一般(美術)
青森県史編纂室	『青森県史 別編 三内丸山遺跡』	アンギン袖なし	一般(歴史)
(株)童夢	『小4チャレンジ』ベネッセコーポレーション	コシキ、スッポン、ワラボシほか	教育
(株)文渓堂	『社会科資料集』6年・全国版	豊穴のすまい(展示)	教育
	『社会テスト6年』付属資料	国宝・石鎌(転載)	
(株)正進社	中学校社会科問題集『スタディナビ 歴史1』	国宝・火焰型土器(転載)	教育
P H P 研究所	西尾幹二『歴史と科学』P H P 新書	国宝・火焰型土器(No.1)	一般(歴史)
(株)チューエツ	広報誌『V I T A』富山県いきいき長寿財團	国宝・考古展示室(取材)	雑誌(広報)
(有)ハユマ	『ビジュアル歴史』	国宝・火焰型土器(No.1) 耳飾りをつけた女性(展示)	一般(歴史)
(株)冬陽社	『歴史の資料』	豊穴のすまいほか(展示) アンギン編み、アンギン衣服	教育
東京書籍(株)	高等学校地理歴史科教科書『新選日本史B』	国宝・火焰型土器(No.1)	教育
(有)データワールド	『発見・体験 日本の食事』(株)ポプラ社	秋の一日ほか(展示)	一般(歴史)
武蔵野美術大学	通信教育課程教科書『日本造形史』	国宝・火焰型土器(No.1)	教育
	通信教育課程教科書『絵画 アートとは何か』		
(株)角川書店	『角川日本陶磁大辞典』	国宝・王冠型土器(No.15)	一般(歴史)
(株)軌プロダクション	『社会科資料集』(株)新学社	国宝・火焰型土器(No.1)	教育
(株)セレブロ	『映像考古学』(ビデオ)	アンギンほか(撮影)	一般(歴史)
N H K 日本放送	『教育セミナー 歴史でみる日本 火焰土器の世界—縄文文化—』	国宝、アンギンほか(撮影)	放送
(株)学宝社	『学習整理』教科書補助教材	国宝・深鉢形土器(No.47)	教育
	『確認から発展へ』教科書補助教材		
(株)講談社	『再現 日本史』	青苧の刈り取り 国宝・火焰型土器(転載)	一般(歴史)
	『総合百科事典ポプラディア』	木の実をとる男(展示)	一般(総合)
(株)思文閣出版	『神靈の音ずれ—太鼓と鉦の祭祀儀礼音楽—』	国宝・火焰型土器(No.1)	一般(歴史)
(株)ネクサス	『芸術に恋して—岡本太郎と縄文—』テレビ東京	国宝(撮影)	放送
Orientations(香港)	『Orientations』	国宝・火焰型・王冠型土器	雑誌(美術)
(有)ヴィトゲン社	『歴史の資料』(株)正進社	国宝・深鉢形土器(No.47)	教育
(株)光文書院	『社会科資料集5年』	雪室・シュラ	教育
(株)同朋舎メディアプラン	『季刊 国宝俱楽部えん』	国宝(取材)	雑誌(歴史)
嵐山町教育委員会	『嵐山町博物誌 原始・古代編』	国宝・火焰型土器(No.1)	一般(歴史)
(株)青潭社	『N H K 教育セミナー 歴史でみる日本』	国宝・火焰型土器(No.1)	一般(歴史)
(株)かまくら春秋社	『みずほの国 子どものための日本小百科』	国宝・火焰型土器(No.1)	教育
(株)フォト・オリジナル	『新潟県版 地理教材』(株)新学社	コシキ	教育

表2 写真資料の貸出一覧 (主要なもの、2001.4.1～2002.2.11現在)

# 資料

## 指定文化財一覧

平成14年3月31日現在

### [国宝]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
1	考古資料	笛山遺跡出土深鉢形土器57点 (附 土器・土製品類ほか871点)		平成11.6.7	西本町1	十日町市(博物館)	縄文時代

### [重要文化財]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
2	有形民俗	越後縮の紡織用具及び関連資料	2098点	昭和61.3.31	西本町1	十日町市(博物館)	江戸～明治時代
3	"	十日町の積雪期用具	3868点	平成3.4.19	"	"	江戸～昭和30年代

### [新潟県文化財]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
4	建造物	神宮寺觀音堂・山門	2棟	平成3.3.29	四日町	神宮寺	江戸期
5	絵 画	山水図釣雲泉筆六曲屏	1双	昭和29.2.10	山本	関口芳央	江戸時代末期
6	彫 刻	木造十一面千手觀音立像	1軀	昭和46.4.13	四日町	神宮寺	平安時代後期
7	"	木造四天王立像(伝広目天・伝毘沙門天)	2軀	昭和49.3.30	"	"	平安時代末期
8	有形民俗	越後縮幡	74旒 追加50.3.29	昭和49.3.30 追加50.3.29	吉田山谷 ほか	吉田社ほか6社 (博物館)	江戸～明治時代
9	史 跡	大井田城跡		昭和53.3.31	中条	十日町市	南北朝期
10	天然記念物	小貫諏訪社の大スギ	1本	昭和53.3.31	小貫	諏訪神社	幹周8.33m

### [新潟県選定保存技術]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
一	選定保存技術	十日町茅葺職人	4人	平成12.3.21	—	—	

### [十日町指定文化財]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
11	建造物	智泉寺山門	1棟	平成6.3.23	昭和町3	智泉寺	江戸時代中期
12	"	観泉院山門	1棟	平成7.3.24	土市	観泉院	"
13	絵 画	一遍上人絵調伝	8巻	昭和54.9.12	川原町	小林賢有	"
14	彫 刻	木造阿弥陀如来立像	1軀	平成8.3.21	川原町	来迎寺	鎌倉時代後期
15	"	木造聖観音立像	1軀	平成13.3.22	新宮	竜王山講中	戦国期末
16	工芸品	越後縮裂見本帳	2冊	昭和47.11.28	本町3	蕪木孫右	江戸期
17	"	十日町市織物歴代標本帳	47冊 追加1.2.16	昭和62.2.23 追加1.2.16	西寺町	十日町織物工業協同組合 (博物館)	明治25年～昭和13年 明治42年～昭和8年
18	"	縮問屋加賀屋の御用縮及び関連資料	110点	平成2.6.8	西本町1	蕪木元昭(博物館)	江戸時代後期
19	"	宮本茂十郎手織の透綾(絹縮)裂地	3点	平成13.3.22	"	十日町織物工業協同組合 (博物館)	江戸～明治時代
20	有形民俗	越後アンギン及び関係資料	一括	平成11.3.16	"	十日町市(博物館)	江戸～明治時代
21	古文書	太子堂村検地帳	4点	平成12.3.21	"	若井基八郎 (博物館)	中世～江戸時代初期
22	考古資料	馬場上遺跡出土品	一括	平成2.2.22	"	十日町市(博物館)	古墳時代中期～平安時代
23	考古資料	笛山遺跡出土品(国指定分を除く)	一括	平成2.2.22	"	"	縄文時代、中世
24	考古資料	伊達八幡館跡出土品	一括	平成11.3.16	"	"	中世

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考
25	考古資料	幅上遺跡出土品	一括	平成12. 3. 21	西本町1	十日町市(博物館)	縄文時代
26	歴史資料	旗指物	1 旗	昭和55. 4. 11	六箇山谷	富井清孝	江戸時代初期
27	"	明和元年の俳句献額	1 面	平成14. 3. 22	四日町	神宮寺	江戸時代中期
28	"	安永七年の俳句献額	"	"	諏訪町	諏訪神社	"
29	無形民俗	赤倉神楽		昭和51. 11. 8	赤倉	赤倉神楽保存会	
30	"	大の坂		昭和59. 1. 26	中条旭町	中条大の坂保存会	
31	"	新保広大寺節		昭和59. 1. 26	下条本町	新保広大寺節保存会	
32	"	新水のドウラクジン(道楽神)と ハネッケエーシ(羽根返し)		平成 7. 3. 24	新水	新水地区	
33	工芸技術	越後アンギン製作技術		平成11. 3. 16	西本町1	越後アンギン伝承会	
34	史 跡	四日町神宮寺境内地及び山林		昭和47.11.28 追加49. 6. 11	四日町	竹内道雄	江戸期
35	"	大黒沢正平在銘梵字碑	一基	昭和51. 1. 10	大黒沢	村山キノエ	南北朝期
36	"	鉢の石仏		昭和53. 1. 28	鉢	鉢石仏保存会	江戸期民間信仰跡
37	"	笛山遺跡		平成 4. 12. 3	中条上町	岩田栄十郎ほか	縄文時代、中世
38	"	羽川(秋葉山)城跡		平成10. 3. 25	六箇麻烟	麻烟・羽川城跡保存会	戦国期
39	名 勝	積翠荘		昭和55. 4. 11	吉田山谷	酒井うめ子	江戸期
40	天然記念物	姿箭放神社大ケヤキ	1 本	昭和63. 7. 20	姿	箭放神社	樹齢約550年、幹周5.14m
41	"	高秉神社社叢		平成1. 10. 3	背戸	高秉神社社	
42	"	安養寺松尾神社の大スギ	1 本	平成4. 3. 21	安養寺	安養寺地区	樹齢約500年、幹周7m
43	"	安養寺円通庵の三本スギ	3 本	平成4. 3. 21	"	"	樹齢約500年
44	"	枯木又龍王池とカスミザクラ及び 三本スギ	一ヶ所、 1本、3本	平成6. 3. 23	枯木又	枯木又地区	
45	"	入山のカスミザクラ	1 本	平成9. 3. 24	入山	山本丑松	

#### ■指定文化財管理委託料

《県指定文化財》	(単位：円)
史跡 大井田城跡	61,200
天然記念物 小貫諏訪社の大スギ	18,000
《市指定文化財》	
建造物 智泉寺山門	18,000
建造物 觀泉院山門	18,000
史跡 四日町神宮寺境内地 及び山林	61,200
史跡 大黒沢正平在銘梵字碑	18,000
史跡 鉢の石仏	61,200
史跡 羽川(秋葉山)城跡	61,200
名勝 積翠荘	36,000
天然記念物 姿放神社の大ケヤキ	18,000
天然記念物 高秉神社社叢	61,200
天然記念物 安養寺松尾神社の大スギ	18,000
天然記念物 安養寺円通庵の三本スギ	18,000
天然記念物 枯木又龍王池とカスミ ザクラ及び三本スギ	36,000
天然記念物 入山のカスミザクラ	18,000
(合計)	(522,000)

#### ■指定文化財管理補助金

(単位：円)

無形文化財 赤倉神楽	30,000
無形文化財 大の坂	30,000
無形文化財 新保広大寺節	30,000
無形文化財 新水のドウラクシン(道楽神)と ハネッケエーシ(羽根返し)	
(合計)	(120,000)

## 編集ノート

文化財課年報6をお届けします。

昨年3月、アフガニスタンで貴重な世界的文化遺産バーミヤンの石仏がタリバンによって爆破され、世界に衝撃を与えました。信仰とはどうあるべきなのでしょう。また、文化財とは何なのでしょう。こうした問い合わせ私たちに、正面から突きつけた出来事でした。

それはさておき、当市の文化財行政でも様々な問題が生じ、対応に追われた一年でした。宅地開発等による遺跡の破壊、国宝火炬型土器の大英博物館への出品と新たな亀裂の発見、国宝が出土した市史跡、笹山遺跡の保存・活用に関連した地権者との話し合い、ほかに選定保存技術保持者の他界もありました。

昨今、文化財保護活動を取り巻く全体の雰囲気は、「保存から活用へ」とシフトしていく傾向にあるようです。それはそれで文化財の幅広い周知や理解などを考えると大切な事であること分かっているのですが、この傾向に拍車がかかることに対しては担当者として一抹の不安を感じています。文化財は現代に生きる私たちだけのものではなく、優れた先人の遺産として後世に伝えていかなければならないもののはずです。とすれば、まず保存が優先されるべきであり、その許す範囲での公開や活用が図られるべきでしょう。この視点への理解を欠くと、将来に禍根を残す事になるのではないかと思う。

そのためにも、昨年も記したことですが、これからはただ単に古い物を残そうとか、郷土の誇りだとか、地域のアイデンティティといった面からだけでなく、環境保全とか、心の安らぎや快適な暮らしと文化財をテーマにした、保存・伝承・活用などの文化財行政のあり方を追求することが益々重要になると思います。

ともあれ、ささやかな記録ではありますが、是非ご一読いただき、ご指導やご鞭撻をいただきたくお願い申し上げます。

また、文化財課の事業や活動においては、関係機関・団体をはじめ指定文化財の管理者の皆さん、発掘調査作業員の皆さん、関係業者の皆さん等大勢の方々のご支援・ご協力をいただいている。ここに紙面を借りて、厚くお礼申し上げます。

(竹内)

### ■文化財課・博物館職員（平成13年度）

文化財課長	山田 正毅	（兼）
文化財係長	竹内 俊道	文化財主事
主査	高橋 アキ	（兼）
主任	村竹 修	
同	太田 喜重	
同	菅沼 亘	文化財主事
主事	岩田恵美子	（兼）
同	林 真子	（兼）
嘱託	阿部 恭平	
同	中澤 幸男	（博物館）
補助職員	山田 敏枝	
同	上野 洋子	
同	山口真佐子	（博物館）
整理補助員	根津 恵	



---

---

十日町市教育委員会 文化財課年報 6

発行日／平成 14 年(2002)3 月 31 日  
編集・発行／十日町市教育委員会  
文化 財 課

〒 948 - 0072 新潟県十日町市西本町 1 丁目  
十日町市博物館内  
十日町市教育委員会文化財課  
TEL (0257) 57 - 5531  
FAX (0257) 57 - 6998

---

---

印刷／(株)滝沢印刷